

《 LiB-AID E500が料理の幅を広げる!! 》



加熱調理したコーンポタージュの食材をハンドブレンダーでミキシングして滑らかに

火ではなく電気で加熱するので、調理中に風が強くなっても立ち消えの心配がない

タイマー調理ができるので料理がはかどる!

使用した電気調理器は「レコルト/ヘルシーコトコト」(6500円)。材料を入れて調理時間をセットすれば、あとは放っておくだけ。ツバーナーを2口とも使っているときなどは、こんな「ほったらかし調理」ができる電気製品があると便利だ。今回はこれでコーンポタージュ作り。できあがりにはアラームで知らせるので、ツバーナーでの焼き料理に集中できる。



電気調理器 200W

電気調理器で手間をかけずにもう1品!

小雀'sインプレッション

電気があって便利さを感じたのはハンドブレンダーですね。これがあると料理の幅が広がります。「朝食にスムージーが飲みたい」なんてリクエストにも簡単に応えられますよ。



使用できる電気製品と使用可能時間/回数

白熱電球 (100W)	約3時間
LEDランタン (12W)	約10~14時間
電気毛布 (55W)	約4時間
1φ電気ポット (430W)	約3回沸騰可能
扇風機 (18W)	約9~15時間
スマートフォン (USB 5W)	約20回充電可能

食後のエスプレッソも電気で。火力調節もいらないので、ただのんびりとできあがり待たせ

ハンドブレンダーでスピード料理!



ブレンダー 350W

料理の下ごしらえがあつという間にできる!

ハンドブレンダーを使えば、ハンバーグに使うタマネギのみじん切りも、あつという間に完成。ハンバーグソースやサラダのドレッシング、コーンポタージュのミキシングにも、ハンドブレンダーは大活躍だ。「キャンプでおいしい食材が手に入ったら、ぜひ料理に使いたい。そんなときにブレンダーがあれば、料理の幅が広がりますね」と小雀さんも大満足だ。



手間がかかるハンバーグも工程がひとつ楽になれば、アウトドアでも気軽に作れる



こんがり焼き色が付いたハンバーグ。そのいい香りがキャンプ場中に広がる



完成!

電気がこれからのアウトドアを変える?

気軽に電気を持ち出せる「リベイド E500」。今回紹介したアウトドア料理のほか、火が使えない車中泊やドライブ途中のコーヒータムでも活躍すること間違いなし。これからはアウトドアに電気があるのは当たり前になるかも?



電気を持って出かけよう!

Honda LiB-AID E500

サイズ: 266×182×248mm / 重量: 5.3kg
 / 定格出力: 300W / 最大出力: 500W
 / 運転時間: 300W=約1時間、500W=約35分 / 電池容量: 377Wh / 充電時間: 約6時間 / 本体色: 3色 (赤、白、黒) / 価格: 7万4000円 (アクセサリソケット充電器同梱モデル=8万円)



電気残量がひと目でわかるインジケーター付き。今回の料理では1目盛りしか減らなかった。まだまだたっぷり遊べそう

クルマでの移動中は、アクセサリソケットから充電ができるので便利



リベイド Honda「LiB-AID E500」で

アウトドア料理はもっと楽しくなる!



コンセントも一緒にお出かけ! /

いつもの料理に電気をプラスが おもしろい!

吹く風も温かくなって、いよいよアウトドアシーズン到来! そこでアウトドアコーディネーターの小雀陣二さんと一緒に、今までにない外遊びにチャレンジしてみることにした。チャレンジするのは、アウトドアに電気を持ち出して楽しむアウトドアクッキングだ!

PHOTO/佐藤弘樹 TEXT/牛島義之



普段から愛用しているアウトドアギアに加え、電気製品を利用したアウトドアクッキング。下ごしらえは断然スピーディーに行える



インバーターを搭載しているため、自宅のコンセントと同じ感覚で使える



運搬時にもかさばらないコンパクトサイズ。ハンドルも付いているので持ち運びも楽だ

いつものアウトドア料理に電気を活用してみよう!
 便利なアウトドア用品が登場するたびに、楽しく快適に遊べるようになってきたと実感。最近ではモバイルバッテリーを持って出かける人も増えてきた。でも、アウトドアで電気を使うと聞いて思い浮かぶのは、スマホやデジタルカメラを充電するくらい。もっと上手に電気を取り入れられれば、きっとアウトドアはこれまで以上に楽しく便利になるはずだ。
 そこで今回は「プラス電気」なアウトドアを実践しながら、電気のあるアウトドアライフの可能性を探ってみることにした。

ば、実践するのは、やっぱりアウトドア料理でしょう!
 そしてキャンプ場に持ち出すのは、ホンダの蓄電機「リベイドE500」という大容量バッテリー電源。コンパクトでかさばらず、いつでもどこでも使えるので、アウトドアにはうってつけだ。
 使用できるのは、消費電力が最大500Wまでの電気製品。家電のなかには使えないものもあるけれど、コンパクトで消費電力の小さな調理家電だったらアウトドアにぴったり! そんな調理家電がアウトドアで使えれば料理の幅が広がるので、現地でおいしいような地元食材を見つけたときも、思い通りに調理できそう。